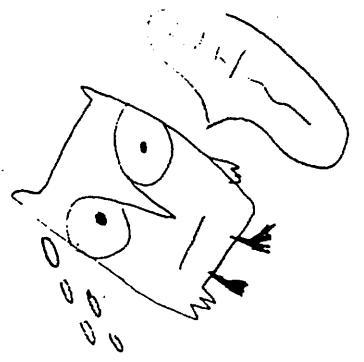
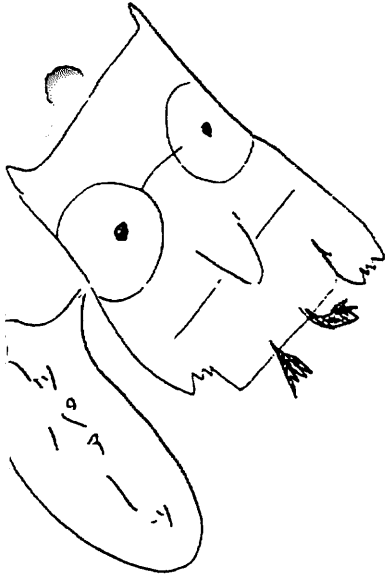


5/25 ~ 6/1

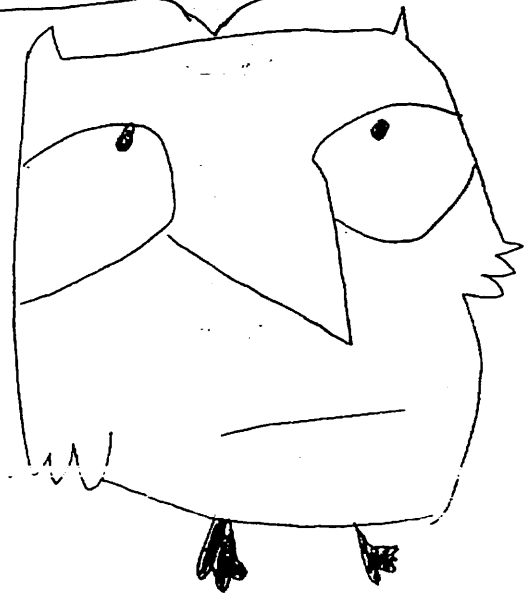
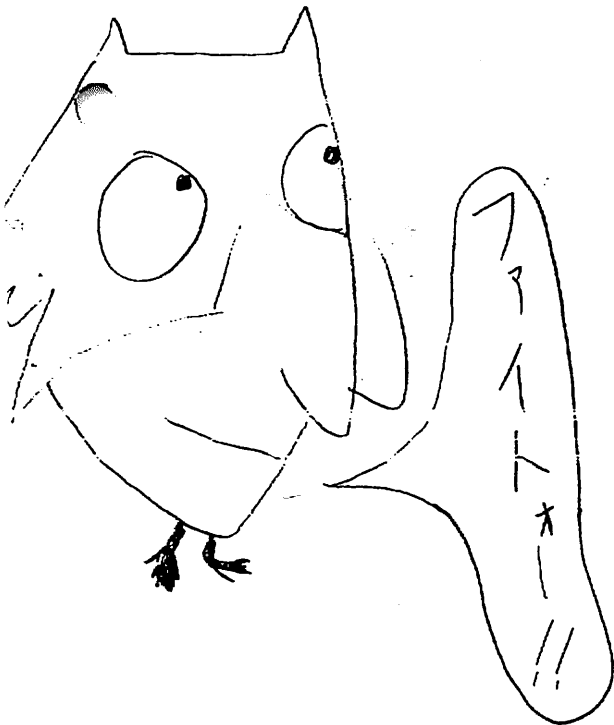
# 新人



# 合宿



ハイキングじゃねんたぞ



# 新人合宿：記録

1/25 (日) 晴 佐々木恵子(1年) (A10-15-)

15:55 砂防ダム出発 ~ 6:50 二保 7:00 出発 ~ 7:50 瀨戸川 8:00 ~ 8:45 岩魚留 9:00 ~  
9:45 小南沢出合 10:00 ~ 10:45 峠沢付近 11:00 ~ 11:45 標高200m付近 12:00 ~  
2:50 徳本峠 13:25 ~ 14:20 白沢上部 14:30 ~ 15:15 T.S

20kgのものを持ったのは初めてのせいかな登りは、かなりきつかった。みんなに迷惑して  
またかもしらる...。足腰肩が、辛い...。だけれど、みんなが待ってくれた  
こと、助けてくれたことにすこし感謝はす。ありがとうございました。

田中基樹(2年) (B10-15-)

M. 5:50 砂防ダム出発 ~ 6:45 二保付近 7:00 ~ 7:50 瀨戸川出合 8:05 ~  
8:55 岩魚留小屋 9:05 ~ 10:00 小南沢付近 10:15 ~ 10:55 徳本峠取付 11:10 ~  
12:00 中腹 12:10 ~ 12:50 徳本峠 13:25 ~ 14:20 白沢上部 14:30 ~ 15:15 T.S

一年ぶりの徳本越え。つかれている一年生を見ると、一年前のオレを思い出す。  
明日で下ツカもおわり。みんながんばろう。

1/26 (月) 川村朋子(1年)

ニリソウ、ミソウイ。  
⑦) A17 6:06 T.S ~ ⑧) 8:30 明神の別れ道 ~ ⑨) 7:15 徳本沢留 9:33 ~ ⑩) 7:48 新村橋  
~ ⑪) 8:40 横尾山荘 8:54 ~ ⑫) 8:56 横尾山荘そばの橋 ~ 9:25 BC

反省] 荷物は軽いんだから、もう少し元氣張らねば。今回は、ヒールを傷めたりおに  
足場に十分長を配ったんだが、なにか「いた」。トレニングもやったの。  
やっぱり甘かったのだろうか。

【感想】 昨年は、ほんとに死にかけて歩いた道だったのに、Specialのおかげで楽しく歩けました。鳥の音がいらぬくらいあって、うれしくなりました。ミソサライ、ユマドリ、ユジヨウカラは生、といったと思えるんですけど。おにくのあたまたぶたけじ、そこを「激しくなつたからあつたほんじに、とろで」BCに着いてから、自然の力に驚かされました。一年でこんな川の様子が変わるなんて。あと屏風岩に真に登りにこれるように、岩H.にはげもうと思った。

5/27 晴 73%。くもり 10%。雪 17% 下木-B・信介

ESSEN 起床 3:30 ~ 5:15 BC 発 ~ 6:20 榎橋 前 6:30 ~ 7:20 20km 地点 7:30 ~ 7:45 涸沢着 ~ 9:20 雪上訓練 1:00 ~ 1:25 涸沢 コツテ 1:45 ~ 2:40 榎橋 前 2:50 ~ 3:50 BC

【反省】 ラーメンには増えるワカメを入れたい。軽い。(めんが 増えているから...) レーニンが少い。でも増やすと重い。でも腹減る。なんじかしよう。セックルスタッフの完成している。やることのほとんどが雑なもので、ちとていねいに行動してほしい。愛が足りない。

【感想】 涸沢を走るとは思わなかった。雪崩が発生した時に逃げる練習を川井さんに聞いていたが、一たびおこなった。明日も...。雪割はなかなか大変だったが、明日もがんばる。ジェームスボンドへの道はいいね。

堺

【感想】 あるまじりにどうぶつとつかっていたので、体がなまけてはったのかな？ それにしても調子がわるい。かてまてた。

喜田

【感想】 今日は、つらかった。自主トレをやらなまてもらった。明日の雪割もがんばろう。

3/28(木)

日高弘次

3:30 ESSEN起床 ~ 4:50 BC発 ~ 5:37 本谷橋子前 5:50 ~ 6:44 一本 6:54  
 ~ 7:25 一本 7:30 涸沢入山 7:50 涸沢山頂 8:40 ~ 8:55 電訓 13:00 ~ 14:45  
 涸沢山頂 14:59 ~ 16:00 BC

反省]。今日は ESSEN 取れたから、テキパキとエッセンの準備ができてよかった。  
 やはり、まず最初にエッセンの準備をしておかならな。い。  
 ・雑人雑感 ~ 合宿編 ~」を書くとこになったが、一本の時間や、BC着の  
 時間などかわらなかつた。記録はかりとろう。

感想] 涸沢走りはキツイ。本当に体力が足りないのか、谷を登ると思う。  
 合宿が終ったから、トレーニングしなくと。あ、雪の上を歩くのが  
 ぬちゃぬちゃで、今日も苦労だ。なんかしんどい、いやだと思つた。  
 明日は体力勝負らしい。おんまり足を引張らな、おんまりおんまりだ。  
 今日はつかれました、早く寝たいので、おんまりおんまり。

## 深沢

反省] きのう エッセン中しゃべりていて、シキ一を吹きこいては、たのは  
 してもバカだった。きのう一日中、ジャージの上にかっぱをきていた  
 ので、汗でジャージがびしょ濡れになつて、はてあかす。夜をむいて  
 死にそうだった。教訓] を生かして今日は、まめに体温調節して、  
 今夜は快適におんまりせよう。でも今日は天候がよかったので、うまく  
 いったのだらう。雨がふいたら、おんまりおんまり。

感想] ぬちゃぬちゃ。合宿から帰つたも、とまってボードにのびろんと思つた。

7/29 (木)

岡本

(本隊)

5:00 BC 発 ~ 5:55 本谷橋 6:05 ~ 6:57 一本 7:10 ~ 7:50 洞沢ゴッテ 8:05 ~  
 8:25 洞沢小屋上部 8:30 ~ 9:35 一本 9:40 ~ 10:35 サ行ツ。途中ゴッテ分岐  
 10:50 ~ 11:45 洞沢小屋の横 11:55 ~ 12:10 洞沢ゴッテ 13:20 ~ 14:15  
 本隊(橋手前) 14:25 ~ 15:30 BC

反省] 一度言われたことなのに何回も失敗した。

感想] 頂上に行けなかったのがさびしかった。橋の感想 如 台風の感想を思い出して書く。エエ

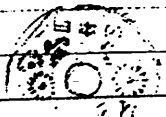
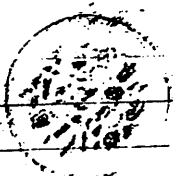
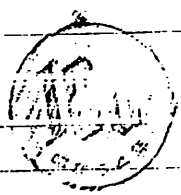
小林

(北尾根隊)

山 小林 11 升

4:40 BC 発 ~ 5:30 丸太橋 5:40 ~ 6:30 洞沢ゴッテ 6:40 ~ 7:30 5,6の  
 コル直下で一本 7:40 ~ 8:25 4峰 peak ~ 9:25 4峰上部で"思わす"  
 サイルを出す ~ 10:40 4峰 peak ~ 11:40 3,4の コルから下峰開始  
 ~ 12:10 本隊と合流

感想] 天候は本隊と合流してのち悪化雨となった。4峰と5峰を  
 1人で認識して行った。4峰上部でサイルを出して  
 大柱く時間とられたのが大きい



5/30 (金) <切りほし王晴 島 (本隊)

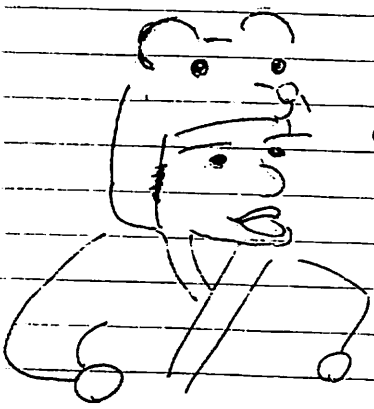
5:30 BC発 ~ 6:20 棉見台本 ~ 7:20 (2125m 地岳) - 本 ~ 8:25 (2370m) - 本 ~ 9:30 (2625m) - 本 ~ 10:06 蝶ヶ岳 peak 10:40 ~ 11:30 (2400m) - 本 ~ 12:30 (2060m) - 本 ~ 13:35 横尾小屋 ~ 14:30

[感想] 今日、待望のピークに立つ。景色はかすんでいまいちだったけど、やっぱりピークはいいものだ。明日はどうかしら再々くまいけど、どうにかして槍にも立ちたい。

高橋

[感想・反省] 蝶ヶ岳、生まれて初めての山だったけど、あの山ではあまりのぼりたくなかった。おうと同じ風景ほんとは、エベの準備がおそかった。もう、手をのびたい。

[感想] 登る途中で棉ヶ岳から、すらみえた。大須賀さんの方が登れるのか分からず。蝶ヶ岳のピークはなかなかおそかった。槍はもういいからさっさと



くまさん 島

原田 (雲稜隊)

## 屏風岩東壁雲稜ルート

CL 原田 ムギヤ

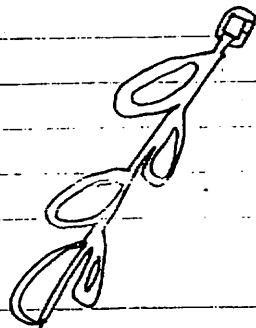
一時待機 ~ 6:45 BC発 ~ 7:45 (T4取り付き) 8:10 ~ 9:20 (T4)  
 9:35 ~ 13:00 (ルート図4P目終了地点) ~ 14:30 (T4) ~  
 15:40 (取り付き) ~ 16:25 (BC)

## [ルートについて]

- ・ルートはフリーが多く楽しい
- ・1P目のかぶり気味の凹角が一番でこぼた。核心部といわれている3P目は単なるアツシのかけはえ
- ・5P目のルンゼは前日~今朝までの雨で濡れていたのでもやめしは。
- ・下降でこぼれたザイルを切りました。

## [感想]

今シーズに初めての本キャンというこでかなりよかった。特に1P目の凹角は普段はヌモ登ること多い。おぼろにこぼれてゲートは上に難しく感じられた。やはりペースアップ凹角... ぶいんたいり311373  
 所で岩トしおいとあり本キャンには使えぬと痛感し。あと岩トでも負荷をつけて登るとよいと思った。他の2年生と一回最後まで登りました。



5/31 (土) 早朝 雨の降と晴れ

岸本俊朗

2:40 ESSEN起床 ~ 3:41 待機決定 ~ 5:15 沈殿決定 ~  
10:00 山菜採りBC発 A班は檜沢 B班は徳沢 ~ 12:36 横尾  
~ 2:00 BC

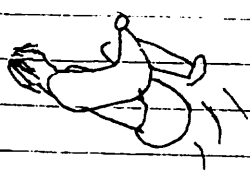
感想] 今回の新人合宿のXインとも言えた檜ヶ岳登頂が雨の羞中止となつた。今日のために前日からレインをためておいたのが、無駄になつてしまつた。昨日、煤ヶ岳に登りピークに立つことの味を覚え、はるか遠方の雲に隠れた檜ヶ岳を見て意欲を燃やしていただけに、実に残念なつた。その代わりに、横尾で沢野入りに過然に合えたのでよかった。神様は、しっかり見ていてくれたのだ。ついでに、荒雲のネタでも教えてほしいのだとつづつ感じた。今日の晩Xインは、合宿最後のスペシャルXニューエイジとやらにとつて、豊かに感じて終わりたい。

6/1 (日)

田中

6:00 ESSEN起床 ~ 7:45 BC発 ~ 10:30 徳沢  
~ 11:30 上高地

感想] やつと終わった。





# 係からの報告と反省

エッセンの反省と感想 堀 崇行

- 反省としては、ぶりかけ、漬物、ケチマフが足りなかった  
くさいかと思う。感想としては、米を2合にしても良かった  
ということ、チヤカもうしつあってもいいかなということだ。  
あとは、すかちがうまかったと思うが、みなさんどうだったでしょうか。

～レシヨンと昼めしはあれがぶつうたと思うか...～

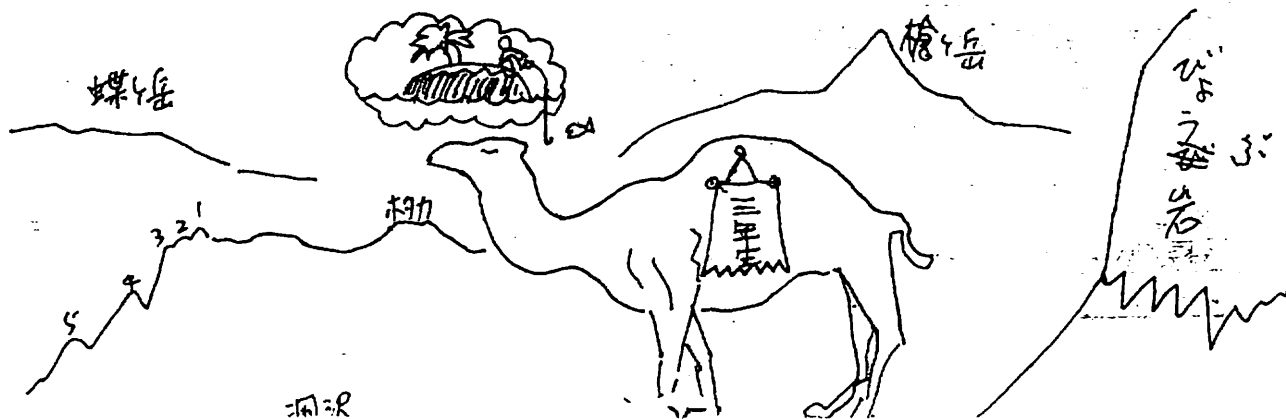
新人合宿 記録 (反省)

- 20人全員に記録を手紙で送った。人数が多いため、つらい。
- 前日に雑人雑感かなくなった。

対象の反省

錦田 聡

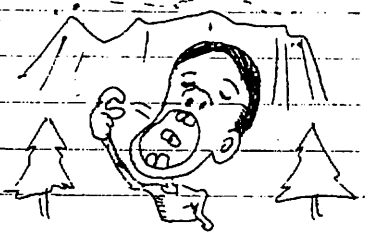
- 1年生全員に天狗園を抽せられた。... きちんと考えておいた。
- 天狗が全員の鏡のお天狗園の難しさを所感した。



# 医療係 報告 反省 感想 中島辰哉

報告

10プロン(カゼ薬)	18錠強	消費
ユバラ	少々	"
綿花	3玉	"
ワジーコ	2,3枚	"
バツマリ	4錠	"



## 感想

今回は大きな火傷、損傷もなく、医療係の土着もなくて済んだ。毎回の新人合宿では何かしらを負う者が出るようであるが、今回は大きなものはなかった。因邪は心配していたが、流行病もなく、因邪気味程度の人は多かったようだ。これは長い合宿を過ごすに多かれ少なかれあると思う。

あと目立った傷(症状)としては、雪のあふ山での無用心から生ずる過度の日晒けと雪目である。大須賀が耳に火傷Ⅱ度ぐらゐの日晒けをしたことや大木がサングラスをしながら(しただけ)いたら目に痛みを感じた(雪目)ことだ。日晒けや雪目も個人差があるかもしれないが、早めに日晒け止めクリームやサングラスをかけるなど、あることにより、症状を軽くする事は可能である。日晒けクリームはみんななくぬろう。

## 反省

医療係の中身の個数をしっかり計画書に書いておくべきだった。そうすることで消費量もわかり、次の合宿に向け、補充したりできる。あと、股お水やかぶ水のためのオ天仙軟こうを持っていればよかった。テープは急ぎで、個人的に買って持ってきたが、医療係に必要である。

## これから

万全を期するとは困難であるが、雪目に対しては、ステロイドを含んだ眼薬が有効である。積雪、残雪の山に入山する場合は、医療係に知らせるとも扱いはない。また、靴ずれ対策に、テープも同様に用意した方がよい。個装で持ってきた人もいたが、団塊でも欲しい。

## 最後に

あつねの合宿前にカゼ薬(10プロン)12玉購入した方がよい。(は)

医療係が対処できるのはほんの応急処置だけである。それ以上の傷害をこうむった場合、即下山につなげることを既に銘記、気をつけることが必要だ。

# 装備系の報告と反省

小林 茂幹

## 装備消費量

- カラビナが 2ヶ 行方不明、どこかにまぎれこんでいると思われる。
- ガイル 約 20m を ビョーブに 残置。
- フェリソグ 5本 を ビョーブに 残置。
- MSR の ボトルヘッド を 燃やして しまった。
- メタ ー 35本 たき火との MSR 併用のため 少量が 済んだ。
- ガス ー 72
- ロック 約 3本。 帰天が遅いから、ロックはあまり 使用しなかった。
- 電池(単四) ランバー用(3台) 16本 を 消費
- はし 2本 粉失
- 食器 5ヶ 破損及 焼失
- 天気図 12枚 使用

## 反省

ガイル切断と MSR ボトルの破損は 手痛い消費 だった。 各装備 十分な量を計算して 荷上げした ので、足りないものは 無かったが、 MSR の 調子が 悪いのが、essen を 遅らせた一因ともなった。 青菜天の張りつなは 足りなかったが、問題はなかった。

— 新人合宿 '97 —

会計に関しては不足金も出ず合宿費1人1万5千円という金額も適当な額だったんじゃないかと思います。

渉外は周りの人達の助けもあり全体的にスムーズに事が進みました。ただ、出発の前日にたてやと島々まで送ってくれる車がそろそろなど、事前の準備が不十分でもありました。

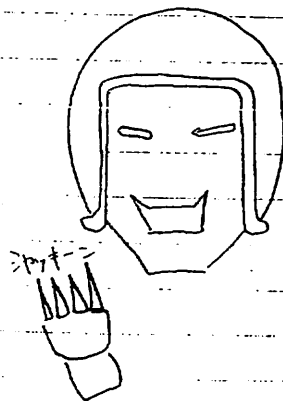
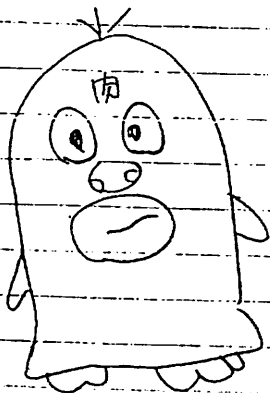
見送りに来てくれた車の中で行く途中と帰り道でトラブルが発生しましたが、そういう時は会としてできる限りの手助けをすべきだと思います。

— 会計報告 —

予算	かんい	合計
収入: 15000 × 21	+ 7000	= ¥322000 -

食費	装備	行通費	見舞金	合計
支出: 146098 -	+ 17866	+ 78480	+ 24000	= ¥266448

使途不明金: ¥1928. -      残金: ¥53628. -



# 新人合宿

## 個人の感想と反省

新人合宿 反省と感想 花谷 泰六 [3年]

### <反省>

- ・指示を考えたから言うまでが遅い
- 指示の内容が悪い
- ・肉体的な疲労を感じた

上の3つは3つ。10月、11月で3つは「...時があった」という感じだ。1年生を運ぶための初めての合宿でリーダー。リーダーの大変さがよく分かった。10月、原因や2年生の存在はじめての頼もしい。本当に助かりました。リーダーが1人で全てをや、ていくのではよく、どんどん人を使ってはまを仕事にしようとしていけるよう。これから色々なことを考えていく必要があると感じた。

### <感想>

まず、事故がなく良かった。当たり前な事は「...」立場が一番使った。今回は2名で徳本峠を越え、久々の大人数合宿だったと思う。それだけ、指示や声が届かなかったりして、みんな苦労した事は多かったです。また、リーダーとはどういふのか、というのをさらに勉強できた。振り返り、2名と大人数、良かった合宿だった。今年で3回目の新人合宿が一番思っていた。捨にも登れず、残念だった。不完全燃焼の人も多かった。この日は10月、11月、僕としては精神的な疲れはほとんど感じなかった。この日は昨年度の冬の合宿から教えて4回目の合宿だ。この頃からは今年の状態。つまり4年生不在という状況が分かった。2月で1月の準備ができていたからであろう。これから今回反省として書いた事ももう書かなくて済むように努力していった。

# 合宿の反省・感想

はらた ほうすけ

4年生不在で始まった今年度。新人を迎えての最初の合宿ということに不安もなかったが、そのおかげか2.3年生は緊張も崩すことなく雪訓等では気合いが入っていたと思う。“楽しむ所は楽しめしめる所はしめる”という花谷の言葉通りにいった。今後ともこの調子でゆくべきだ。

個人の面で自分はまだまだ厳しさが足りないと思った。ある厳しさをもって技術指導しないと技術は伝わりないものだと感じた。技術が伝わりないということは後輩に危険をさらすことだ。厳しくすべき所で厳しくしなければ優しさではなくただ自分が可愛いいだけだ。リーダー部員としては失格である。

反省 最後の2日間しか参加できなかった。しかも天気にも恵まれず、一度も雪を踏むことができなかった。もっと参加したかった。  
山内 哲文

感想 今回、5回目の新人合宿でわかったことは、横尾のB.Cには、新人合宿の独特の空気が流れているということである。それは、この時期、この場所でしか感じる事かできない「新人合宿やな〜」って感じの空気である。そして会のメンバーや雰囲気が変わっても、(今年はしもくほ、てだ)、その空気は毎年同じである。俺はそんな空気を感じる事ができる場所を持って、とって幸せだと思った。

山内 哲文

# [2年]

反省・感想

2年 川井

これまでの合宿もそうであった様に、今回の合宿も個人的にも山岳会全体としても充実した良い合宿だったと思います。

今回、1年から2年になり、自分が1年生を引、張って行く立場に立ち、たぶんですが、立場が変わる事によって、合宿中の気持ちの持ち方もずいぶん変わりました。去年の僕がそうしていた様に、1年生が自分達の行動を見ている人だと思えば緊張感が生まれますし、隊全体の様子を意識するようになります。ただみんなめ後について行く歩行から、隊の様子を意識し、道の状態をよく見たがりの歩行へ、この変化は大きいと思います。

又、この合宿中、登山隊として北尾根に出さずとも、たいてい復察隊として涸沢の途中まで行、た時、fixも張りました。北尾根はペース的には良かったのですが、自分達がい場所を正確に把握できておらず敗退。敗退した後、天気が崩れたので結果的には良かったかもしれませんが、みんなに悔しい思いをしたのは実に久しぶりだったので、絶対に次に~~勝~~つなけてやろうと思います。

fixに~~関~~しては、張り方は全然問題無かったですか、張り場所については全然ダメでした。もっと安全なルートを見付けて、そこに張るべきだったと思います。

1年生も、合宿全体を通してレベルアップという山での生活に慣れたと感じました。合宿前半と後半では動きや歩き方、その時の指示の受けとめ方が良い方へ変わっていたと思います。天気が悪かったり、道の状態が悪く、涸沢岳やリに行くことはできなくて残念だったけど、1年生1人<sup>2</sup>にしてみても、何か得るもののある合宿だったんじゃないでしょうか。

合宿を終わってみて、もっとレベルアップが必要だなと感じました。今後、もっといろんな山を経験して、さらなるレベルアップを~~望~~ってほしいです。

新人合宿の反省と感想

トレーニングをしっかりと行なればいけると思った。

上級生としてもしっかりとしよう。

塚 崇行

# 新人合宿 個人的感想と反省

中島 辰哉

## 感想

2回目の新人合宿ということもあてか、生活面では余裕が持てた。しかし体力面では... (反省に書く)。

今年は雪が少なくて、洞沢への道もたいぶ変わっていた。そして、上の方では新雪が降り、横尾B,Cでもみぞれが降るという、この時期稀な寒土が襲ってきた。洞沢の上の斜面に新雪が15cm弱積もっていたのには驚いた。

2年という立場 教えたり 指本したり することにはなれたけれど、まだまだ自分の足りぬ所も浮き彫りになった。

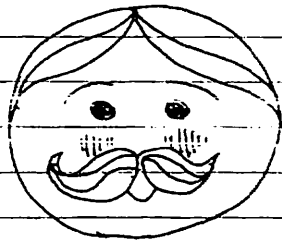
今回、洞沢岳も槍も行けたから、多様な様子の一年生の顔ぶれのおかげで面白い合宿であった。自分もこの合宿をいかに跳躍せねばと思わずにいられない。

## 反省

まずは出発日の一発目の遅刻である。会外の人にも車を出してもらっていたに問わず、迷惑をかけてしまったことと併に、上級生としてあらかじめきんことをしてしまっている。遅刻は厳禁だ。

次は、体力の不足である。洞沢走りでは堂々2年のしんがりを勤めてしまった。日々のトレーニングと気力・精神力不足としか言いようがない。

さらに、直前の右足の腱鞘炎である。合宿中は、ブーツに足を入れつけ、出発前の注射のおかげで全く問題なかったが下山時にサドルで歩いた時からまた痛み出した。入山前の体調管理はしっかりしておくべきであった。





▶反省：知識面での反省が多かった。山の名前なども、いまいち自信がなかったし、観天望氣も、よく分からない。一年生に少し、つまみ食いした話をすると、すべり行進ついでほうというふうな感じである。山どの知識は生死を分ける大きな分岐点である。今後、その点を伸ばしていきたい。

▶感想：今回、最も感激したのは、私事になるが、体力の向上である。まさか、この一年間で、あんなに向上しているとは夢にも思わなかった。合宿中、よく去年の新人合宿を思い出した。涸沢走りでは、毎回、ゴリゴリバテバテで歩いていて、後ろから「止まるな」とか「走れ」というような声かきこえてきたものだ。育英天でのエッセ風景もなつかしい。あのころは、山に登りたいというそれだけで、頭の中がいっぱいで、体力的、精神的にまわった。一年生は、今年は、体力的に、まっぴかもしやないが、一年間、山をやれば、たぶん「愛するもの」だ。あきらめずにがんばってほしい。

## 新人合宿の反省

野田 聡

はつきり言って自分をコントロールできない自分に悩まされた。気を抜くところでもなかなか完璧に気を抜けなかつたり、やらなければいけないことを他人任せにしたり、また、自分勝手な自分を抑えきれなかつたし、涸沢走りの時をもっと根性を出して走れそうだったので、いまいち自分に負けているようでこれまた憂めるわけにはいかない。新入生の良き見本にはあまりなれなかつたような気がする。

これまでにない自分に近づくために、今までの自分から離脱するために、これを転機として人間的にも精神的にも POWER UP したいと思う。

でも厭なことばかりじゃなかつた。最後の夜の酒は久しぶりにおいしい酒で、楽しかつたし、その後、夜中にふと目覚めたときに天の川を駆けぬけて逝った星、あれはとてもきれいだった。

反省 Ⅹ 個装の忘れ物もなく、体調も良く、山行中の二年生の役割も考えてみても、大きな失敗はなかった。しかし、全体的にパワフルさに欠けていた。さらにパワフルに動くためには、体カと多くの経験が必要だと考えた。細心さにも欠けていた。

感想 Ⅹ 北尾根の失敗は痛かった。だが、いづれ計画しよと考えている冬の北尾根のためのいい経験となった。横尾 B.C. までの荷が軽かった。ホッとした反面、物足りなさを感じた。来年は酒、食料は、ケチらないういで、たくさんもち上げよう。正月以来 ひきずっている精神的な不安定さのために、何かいまひとつ気持ちが盛りあがりなかつたのは情けなかつた。早く気持ちの整理をつけて、夏山に向かいたい。

— 新人合宿 '97 —

(反省&感想)

2年生となり、上回生としての新たなるスタンスを持って迎えた新人合宿では、上回生という立場の厳しさを知った。上になったからには、自分に対してだけまめまめしくあつてはならず、下に対してもまめまめしくなくてはならない。一回生に対してもまめまめしく生きる、これが今後の課題である。しかし、新人合宿で犯したミスはこの課題の以前の問題であつた。自分に対して全然まめまめしくない。コンタクトを落としたり、メットを忘れて等々である。今後の課題を行なうと同時に、前回の課題も同時に復習せねばならない。まめまめしさに関する<sup>こと</sup>のほか、まだまだ今後上回生として足りないところがあるのは人に言われなくてもわかっている。それも主に自分の性格に関わつてくることであろうが、そのことに対してもよくよく検討して自分に対して課題を与えるつもりである。

# [1年]

## 新人合宿の反省と感想

川村 朋子

- 新人合宿に参加するのは2回目ですが、留年(山岳会E)にしてしまったので今年も1年生としての合宿でした。今年は、昨年の自分の弱点であり問題点であった自分に弱いという精神面を克服しようと思っていました。自分では昨年よりは向上したと思います。涸沢走りは走れなかったのに、涸沢歩きになってしまいました。自分では精一杯やりましたが、七折の所の完治は難しいですが、早く完治できるように努力するのみです。あと、essemの時は一としていた様に思います。スプ捨てるは、みんなの朝食であり、火を扱うessem時に一としていたのは、大きな問題です。反省すべき点はもっとありますが、ただの反省だけにならない様に心に刻んでおきます。
- 今回の合宿では、ピークを踏むことまでできませんでした。山に行くことがとても楽しかったです。次回の山行が楽しみになりました。棉には個人山行で行きたいですね。蝶だつて。今年は岩にも行けるように岩壁頑張ります。屏風岩に行きたいです。

## 山岳会 反省と感想

福士 知<sup>No.</sup>史

まず初日の30kgのザックを背負っての徳本山を越えて下ばってしまい、そのあと何日もつかれがぬけずにくるしんだ。あとくつついれで2日かかたりきしめられた。歩くたびにアキレス腱がいたくなってしょうがなかった。エッセンのときは、習ったMSRの技術行などを忘れていて手際が悪かった。今回の合宿では作れなかったのが反省点なので、次回までに、もっと作れたいと思う。あと酒を飲んだ日にかぜをひいて、酒もあまのまめに寝てしまったので、残念だ。ぜひ今度は酒をたくさん飲みたい。

# 深沢遊

高枚時代にも山には登っていたが、今回は  
今まで経験のない一週間という長期の山中  
在であり、自分としても山に登ることへの考  
え方が変わった。高枚では多く泊りたため  
で山を去る時には「アイズニ」から帰る  
ときのような存さみしい気持ちでいたものだが  
一週間も山の中にいると家でやりたいことな  
どがそつと思い起こされ、山を下りたりとい  
う気持ちを少しは感じようになつて来た。

また汗をかいて寝た夜は苦しかった。

次に、具体的なことについての感想を書くと、  
まがプリント場でなくヤミ天をみるという  
ことが、幕堂料を引く必要がなく気持ちよか  
つた。また色々なことについてすべてが徹し  
いのが大変だったが慣れれば平キ平キとして  
いて気持ちいいだろうし慣れればならぬ  
だろう。慣れたら自分のガリフを持つた  
ことも嬉しかった。これについては大学入  
学前に70、80以上のものを地元の買つてこよう

鬼<sup>5</sup>たりもしたが、買<sup>10</sup>わ本<sup>15</sup>に果<sup>20</sup>てがッ<sup>5</sup>三<sup>10</sup>に  
出<sup>15</sup>会<sup>20</sup>入<sup>5</sup>て本<sup>10</sup>巻<sup>15</sup>に食<sup>20</sup>か<sup>5</sup>つたと思<sup>10</sup>つてい<sup>15</sup>る。また  
自<sup>15</sup>分<sup>20</sup>のゴ<sup>5</sup>ッ<sup>10</sup>フ<sup>15</sup>エル<sup>20</sup>を持<sup>5</sup>たが、寺<sup>10</sup>々<sup>15</sup>め<sup>20</sup>て持<sup>5</sup>つて  
い<sup>10</sup>くとい<sup>15</sup>うのも驚<sup>20</sup>いたが、考<sup>5</sup>え<sup>10</sup>てみ<sup>15</sup>ると合<sup>20</sup>理  
的<sup>5</sup>なと思<sup>10</sup>つた。雪<sup>15</sup>訓<sup>20</sup>の二<sup>5</sup>日<sup>10</sup>目<sup>15</sup>はイ<sup>20</sup>イ<sup>5</sup>ロ<sup>10</sup>の  
カ<sup>15</sup>ッ<sup>20</sup>イ<sup>5</sup>も着<sup>10</sup>て汗<sup>15</sup>をた<sup>20</sup>くさん<sup>5</sup>か<sup>10</sup>いたま<sup>15</sup>ま寝<sup>20</sup>て、  
夜<sup>5</sup>寒<sup>10</sup>く<sup>15</sup>てか<sup>20</sup>なりま<sup>5</sup>い<sup>10</sup>つたが、そ<sup>15</sup>れを<sup>20</sup>乗<sup>5</sup>り<sup>10</sup>切<sup>15</sup>つ  
た<sup>20</sup>と王<sup>5</sup>の<sup>10</sup>~~た~~東<sup>15</sup>感<sup>20</sup>はな<sup>5</sup>か<sup>10</sup>つた。

山<sup>5</sup>男<sup>10</sup>ら<sup>15</sup>しく<sup>20</sup>焼<sup>5</sup>け<sup>10</sup>ま<sup>15</sup>う<sup>20</sup>とし<sup>5</sup>た<sup>10</sup>の<sup>15</sup>に<sup>20</sup>焼<sup>5</sup>た<sup>10</sup>皮<sup>15</sup>膚<sup>20</sup>が  
バ<sup>5</sup>リ<sup>10</sup>バ<sup>15</sup>リ<sup>20</sup>と<sup>5</sup>落<sup>10</sup>ち<sup>15</sup>て<sup>20</sup>し<sup>5</sup>ま<sup>10</sup>つ<sup>15</sup>た<sup>20</sup>の<sup>5</sup>は<sup>10</sup>残<sup>15</sup>念<sup>20</sup>か<sup>5</sup>つた。

河<sup>5</sup>童<sup>10</sup>橋<sup>15</sup>か<sup>20</sup>ら<sup>5</sup>飛<sup>10</sup>が<sup>15</sup>あ<sup>20</sup>り<sup>5</sup>る<sup>10</sup>の<sup>15</sup>ゆ<sup>20</sup>え<sup>5</sup>と<sup>10</sup>も<sup>15</sup>氣<sup>20</sup>持<sup>5</sup>ち<sup>10</sup>よ  
か<sup>15</sup>つ<sup>20</sup>た<sup>5</sup>の<sup>10</sup>で<sup>15</sup>来<sup>20</sup>年<sup>5</sup>は<sup>10</sup>も<sup>15</sup>つ<sup>20</sup>と<sup>5</sup>余<sup>10</sup>裕<sup>15</sup>の<sup>20</sup>あ<sup>5</sup>る<sup>10</sup>飛<sup>15</sup>が<sup>20</sup>込<sup>5</sup>み  
む<sup>10</sup>を<sup>15</sup>し<sup>20</sup>た<sup>5</sup>い<sup>10</sup>と思<sup>15</sup>つた。

以<sup>5</sup>上<sup>10</sup>思<sup>15</sup>い<sup>20</sup>つ<sup>5</sup>く<sup>10</sup>ま<sup>15</sup>ま<sup>20</sup>書<sup>5</sup>き<sup>10</sup>ま<sup>15</sup>した。

反<sup>5</sup>省<sup>10</sup>とし<sup>15</sup>て<sup>20</sup>は、週<sup>5</sup>課<sup>10</sup>表<sup>15</sup>り<sup>20</sup>で<sup>5</sup>思<sup>10</sup>う<sup>15</sup>よ<sup>20</sup>う<sup>5</sup>に<sup>10</sup>走<sup>15</sup>れ  
な<sup>20</sup>か<sup>5</sup>つ<sup>10</sup>た<sup>15</sup>ニ<sup>20</sup>と<sup>5</sup>、エ<sup>10</sup>ッ<sup>15</sup>セ<sup>20</sup>一<sup>5</sup>夫<sup>10</sup>の<sup>15</sup>と<sup>20</sup>キ<sup>5</sup>に<sup>10</sup>色<sup>15</sup>々<sup>20</sup>  
吉<sup>5</sup>を<sup>10</sup>し<sup>15</sup>た<sup>20</sup>ニ<sup>5</sup>と<sup>10</sup>が<sup>15</sup>強<sup>20</sup>く<sup>5</sup>思<sup>10</sup>い<sup>15</sup>出<sup>20</sup>た<sup>5</sup>れ<sup>10</sup>る。ニ<sup>15</sup>れ<sup>20</sup>ら<sup>5</sup>は  
い<sup>10</sup>か<sup>15</sup>れ<sup>20</sup>も<sup>5</sup>日<sup>10</sup>々<sup>15</sup>の<sup>20</sup>訓<sup>5</sup>練<sup>10</sup>や<sup>15</sup>ち<sup>20</sup>よ<sup>5</sup>つ<sup>10</sup>と<sup>15</sup>し<sup>20</sup>た<sup>5</sup>流<sup>10</sup>量<sup>15</sup>カ<sup>20</sup>ア  
ッ<sup>5</sup>で<sup>10</sup>補<sup>15</sup>え<sup>20</sup>る<sup>5</sup>も<sup>10</sup>の<sup>15</sup>な<sup>20</sup>り<sup>5</sup>で<sup>10</sup>ニ<sup>15</sup>れ<sup>20</sup>か<sup>5</sup>ら<sup>10</sup>努<sup>15</sup>力<sup>20</sup>す<sup>5</sup>る<sup>10</sup>  
と<sup>15</sup>に<sup>20</sup>す<sup>5</sup>る、

No.

# 新人合宿 晴弘次

一週間、いろいろな事をしてしんどかったけれど、普段通りに  
松本に居た人では絶対に経験できない事をできて、本当によ  
かったと思う。

今回の合宿では蝶ヶ岳しか登れなかったけれど、剣ヶ岳に  
も登ってみたいと、今にはれは思います。

合宿は、僕にとってはしんどいものでしたが、山の雄大さを  
知ることができたと思う。まだ山についての知識もなく、特別  
に登りたい山とかはないうけれど、できるだけ多くの山に登り、  
一つでも多くの山のすばらしさを知りたいと思う。

テントでは、起床時と入眠時の時の手際の悪さです。起床の時  
は前日のうちにその日に持っていく物を用意して、一つの所にまとめ  
るべきでした。あと、天気図の練習をしっかりとしなければなりません。

雪訓では、直上、直降、トラバース、やただの雪道の歩行が  
ぜんぜんできてなかった。冬山に登るのには必ず要るものなの  
で、もっと練習しないとイケない。

あと、とにかく全般的に体力がないことです。涸沢走り  
でもほとんど走れず、めんどくさかった。夏合宿に向けて  
トレーニングをします。

もう一つ、つけ加えるなら、体の間接の固さです。肩とか足首と  
かが並はずれた固さなので、ぐりと柔らかくしたい。

あと、もう一つ、山靴を先方にはきながらきたことで、靴  
ずれになって、みんなにめいわくおかけました。

あと、アリスを忘れた。亮介さんに借りることができたからいいものの  
重大な事だった。

とにかく夏合宿に向けて体力作りをします。

## 新人合宿を終えて

喜田 壯一

### 《感想》

合宿前は、山登りなんてたいしたことはないと思、  
ていたが、荷物を持って登ると大変フラフラだった。

飯のときの皿の汚れをお茶でおとして飲むという  
行為が生理的にうけつけがたいものがあったが、なん  
てことはない。2回目からは何でもなくなっていた。

朝風呂はほろろすかし、涸沢走り・ラッセルで息を切  
らし、ぬれたジャージがかゆかずに夜ふるえていたり  
して苦しんだが今は良い思い出ということにしてい子  
来年の涸沢走りは、一位になるつもりだ。

心残りには、槍ヶ岳のセーフに立てなかつたことだ  
が、そのうちにできるとは思うからかまわないだろう。

### 《反省》

初日は、一本をとるごとにメモをとり、地図で現在  
所在地をこまめに確認していたが、2日目以降は、めん  
どくでくまらなくなり、メモはたまにとったりしていた  
が、地図は指示された時ぐらいしか見ることもなかつ  
た。また、教えてもらった地名も半分以上頭にはな  
りなかつた。

雪上訓練は集中力が足りずあまり上達はしな  
かつた。

雪上の移動は、しっかりステップを切らなかつたこ  
とが99%、ほとんど反省していた。

山に登るのは初めてなのに、たろんでいたように  
思えた。もう少し真険にすれば良かった。

# 新人合宿の反省と感想

1年: 佐々木 恵子

今回の合宿での反省すべき点をいくつかあげると、  
 行動がとろく、時間をきちんと守れなかったこと、明らかに  
 トレーニング不足であったこと、覚えておかなければ  
 ならなかった器具等の使用法、名前があいまいであった  
 ことなどであると思う。(他にもあると思うけれど...) しかし、横  
 れてくると、  
 器具などについてはみんなについていける

ようになっただと思っている。その他については、夏までの目標と  
 したい。1. 行動をすばやく、時間を守る。2. 体力をつけ、最低、  
 みんなと同じレベルまでもって行く。とにかく、今回は迷惑を  
 かけただけの存在だ、たので、山岳会の負担にならない自分に  
 したいと思っている。

感想は、大変な合宿ではあったけれど、みんなの励まし  
 の陰で乗り切れたし、楽しかった。(お酒が入るとみんな恐  
 しく変化することに今頃気がついた。ちよ、と後悔している  
 今日この頃である。) ありがとうございました。

そしてこれから、よろしくお願ひします。

June. 6. 97. (Fri)

他、  
 ○ 地図、メモをこまかく見とる  
 ○ 山岳会の



# 新人合宿の感想及び反省

岸本

## 【感想】

私にとって今回の合宿は初めて体験することばかりだった。これまで山とは無縁の人生を歩んできたのが、高3の頃から大学に入ったら山を始めてみたいと漠然と考えていた。諸君の本を読んで熱烈に刺激されてというわけでもなく、動機としては至極曖昧で複雑なものが、何かを始めるきっかけは人それぞれではないかと思う。

合宿の前は未知なるものに入りこむ前の期待と不安と興奮の入りまじった心があった。どちらかと言えば不安よりも期待の方が大きかった。事実合宿を終えた感想を一言で言えば「楽しかった」だろう。途中過剰はしつゝ体力的に少々キツイところがあったかもしれないが、一時的にツライと感じるだけで終わってしまえばいいということもなかった。二人で事を善くと、次の合宿が少々恐ろしいのが、体力のあるうちは積極的に体力を使いたいと思う。

私は合宿の最終日に予定していた槍ヶ岳登頂に自分で言うのも人だが、大きな情熱を抱いていた。初心者の私でも槍ヶ岳の名前は知っていたし、その響きがカッコイイなあと意味もよく思っていた。槍の頂上に立つ自分の姿をイメージしたりもしていた。前日からその日のためにレージョコをためこんでいたのが、残念なから無駄になってしまった。前日に虫ヶ岳から眺めた槍ヶ岳は山頂を雲に隠していかにも私を挑発しているような気がして、征服欲をかき立てられただけに中止はくやしかった。その他には水がうますぎた事と星がきれいに見える事などとおまつのフルチェに腹を立てたことなどが印象深い。何れともあれ私は楽しかったし、有意義な合宿だった。

## 【反省】

- ・私は今回の合宿前一番不安だったのは自分の体力だった。不安なものをどうにかしてあげる方がないので、100のトレーニングをした。その効果が少しはあったのがツブれるということもなかったが、上回生との体力差は強く認識させられた。今後努力しつゝ。
- ・火器の取り扱いで注意を受けることが多かった。何もこれは私一人に限ったことではなく、1年生全員に共通していたことだと思う。
- ・下りの時、疲労から体が振れていることが多く、何度も足をひきりそうになったりした。以後気を付けたい。
- ・持ち物の記名が不完全だった。
- ・ハミがキセットを忘れた。相当曲にやるかった。
- ・日焼けを甘くみていた。いい経験になった。
- ・河童橋で飛び込みをしようとした。
- ・天気予報が訓練不足だった。
- ・来年のこと。
- ・行動記録の取り忘れが多かった。

以上



# 新人合宿の反省

- ・反 信州大学山岳会に入って初めての山行となったわけだが、今までやってきたこととずいぶん違っていていろいろととまどい、大小さまざまなミスをしてしまった。反省しなければならぬことがあった。

行動中... 出発 2,3分前のコールにきかず準備にまたついて、出発がふくわてしまった。

エッセン... BCにフいで、気がゆるんでしまい、冗談にならぬ冗談をいってしまった。

前の日の夜に準備していき、朝は3分の7の火にまにあわないことが99%かたずけられず、出発にふくわることかしばしばあった。

全体を通して、自分の物の管理が甘かったと思う。単身など、いくつものものをなくしてしまった。

感

涸沢は何回か行ってけど、2回目までは... けど3回目はいよいよたかしのふくで、いってるのがかわりました。こわいことになったり、何かかいた方がいいこと思った。

## 新人合宿の反省と感想

大須賀

- ・反省 合宿の前に自分では、走っていたつもりだったが、涸沢ダッシュでは全然だめだった。もっと走りこまなければならぬと思った。

感想

涸沢の銀世界は、本当にきれいだった。できれば、涸沢岳から見下ろしてみたい。

# 新人合宿の反省と感想

大木 信介

(反省) 雪訓中にサングラスを外してはたため軽い雪目になってしまった。  
 ・休憩中に手袋を置き忘れてしまった。  
 ・リーダーの指示がでる前に勝手な行動をしてしまった。

(感想) この時期に雪は降り、雪崩は起きるし、雪庇も見ることができ、改めて山の雄大さと恐ろしさを実感させられた。雪訓の内容がなかなか身につかず、大変だった。ピッケルストップでは胸をえぐって血まで出たが、今となっては美しい傷だ。

30kgのザックは大変だったがトレーニングのおかげで体力的には大丈夫だった。夏の40kgに耐えられるようトレーニングを強化しようと思う。ただ筋力が全然足りず、ザックを背負うのが大変だった。肩もすぐに痛くなったし、全身の筋力をアップさせたい。

一年間冬山を登りまくり、基本的なテクニックと知識を身につけられるようがんばりたい。

# 新人合宿の反省と感想

島 俊彦

(反省) 合宿全体を通して、基本的に体力不足だと感じた。これからもっと走り込んで、ついていけるようにしたい。

(感想) 涸沢走りは最悪だったけど、涸沢の空の青さはキレイだった。雨ばかりで悲しかったけど、束の間太陽が輝いた。またザックは重かったけど、これから解放された体はまるで羽根のようだった。まあ、つらいことも辛いこともあるけど、いやつらいことは「かりやけど」みたいなこともあるんやね。

今度時<sup>大木は</sup>はあった時は、テントにちゃんとまじりにまじって、さうつみはおい出し寝て外で寝よう。冬を見たいから外で寝よう。